

令和4年度1月教育委員会 会議録

開催日時	令和5年1月13日（金） 13:30～15:00	
開催場所	町民総合会館 研修室	
出席者	委員	白神敬祐教育長、栗坂祐子委員、綾野克紀委員、市橋晃委員、岡本善弘委員
	事務局	猪木浩二学校教育課長、村木美晴生涯学習課長、貝原丈雄課長補佐、藤井夏樹主任
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 議事・報告案件 <ol style="list-style-type: none"> (1) 問題行動報告について (2) 岡山県学力定着状況確認テストの結果について (3) その他 3 連絡 <ul style="list-style-type: none"> ・早島中学校土曜授業日（1/14） ・早島幼稚園参観日（1/18）※人権講演会 ・英語検定（1/21） ・早島中学校2年生広島研修（1/27） ・数学検定（1/28） ・子ども議会（1/28） ・早島町マラソン大会（2/5） ・漢字検定（2/12） 4 閉会 	
会議資料		
傍聴者		
会議録作成者	藤井夏樹	

会議内容

1 開会

教育長あいさつ

白神教育長：あけましておめでとうございます。

学校園では1月10日に始業式が行われ、それぞれ学年末に向かって動き出している。この年末年始は行動制限がなく、その関係か感染者数が過去最高という話もあるが、基本的な感染対策は従来通り実施している。また、イン

フルエンザも流行期に入ったという話もあり、これからは受験等もある中で万全な状態で臨めるようにしていきたい。

先週、成人年齢が引き下げられた中で、二十歳の集いが実施された。また、28日には子ども議会が予定されている。

24日の午後には福岡県の大刀洗町から視察来庁の予定がある。同日の午前中には文科省の財務課長が小学校に、働き方改革の関係で視察に来られる。

来年度の予算の関係では、国は部活動の地域移行を全国的に実施するということがあったが、本町では給食の公会計化が実施される。

先日の校園長会では、これからは今年度の振り返りと来年度への準備の時期であり、今年度の反省や成果と課題を洗い出し、次年度の計画としていくよう伝えた。

2 議事・報告案件

(1) 問題行動報告について

白神教育長：このことについて担当から説明をお願いしたい。

赤堀係長：資料を説明させていただく。【資料説明】

栗坂委員：いじめの認知件数について、令和3年度は小学校の認知件数は下がっていて中学校は上がっている。どういうことからこうした傾向にあると考えるのか。

赤堀係長：はっきりとした原因は特定できないが、小学校は生徒指導の担当教員が平成30年度から令和2年度は同じであったが、令和3年度に変わった。いじめの認知についての基準が変わったわけではないが、とりまとめをしきれない部分があったことは確認しており、そういった面の指導は行った。

綾野委員：長欠不登校の割合について、ゼロにすることは不可能であると思うが、国などはこの数字以下にはというような数字を設定していたりするのか。

赤堀係長：具体的な数字はない。ただ、長欠不登校の数字だけでなく、そうってしまった後のフォローも大切にしている。自宅でのICT機器を用いた学習等で出席日数に加算していこうという動きもある。

市橋委員：いじめについては確かに基準ははっきりしておらず、数の上下があるかもしれないが、長欠不登校については同じではないかと思う。その中で中学校の長欠不登校者の数が年々増加している。これには理由があるのか。

赤堀係長：長欠不登校は学年が上がるにつれて増加する。一度不登校になった子供が戻ってくるのはなかなか難しく、雪だるま式に年々増加してしまうのは全国的に見ても同じではないかと思う。

市橋委員：それはそうなのかもしれないが単純に小学校は増加していないが中学校は増加している。例えば1つの小学校からそのまま同じ子供たちで中学校に通うよ

うになることなどが関係しているのか。

白神教育長：何か確実なものがあるわけではないが、そういったこともあるのかも知れない。人数が少ないこと、中学校に進学するときに複数の小学校から1つになるわけではないことには良い面も悪い面もあるのかもしれない。

岡本委員：早島町の1小学校に1中学校でずっと子供たちが同じということには良い面も悪い面もあるということを生先生方も認識する必要があると思う。自分の経験からも少ない人数でクラス替等の変化が少ない場合は、手厚い指導ができてよいと思った反面、一度壊れた人間関係を修復するというのはとても難しいことだった。具体的にこうすればよいということは示せないが、そうしたことは先生も認識する必要があると思う。ただ、なぜ学校に来られないか、不登校になってしまうのか、そうしたことの核心はわからなかった。

赤堀係長：貴重なご意見をいただき感謝する。小学校と中学校の違いでは、小学生は多くの保護者が登校のサポートをする場合が多く、保護者が送迎をして学校に来て、別室や保健室でわずかな時間だけでも過ごしている子供もいる。そのような子供は出席扱いになっているので長欠不登校にはカウントされない。このような努力で長欠不登校を回避できている子供も一定数はいる。

一方で中学生になると保護者が送迎することが減っていき、自分の力で学校に行かないといけないことが増える。それは長欠不登校の子供にはハードルが高い。また、小学校では登校支援員も配置されているが、中学校ではそういったサポートが少なくなる。この点は中学校も課題として把握している。また、家庭環境の複雑な場合や世間の環境の変化で学校に行くことが当たり前でないという考えを持った保護者がいると、学校の考えとギャップが生まれている。一度長欠不登校になるとなかなか復帰は難しい。

(2) 岡山県学力定着状況確認テストの結果について

赤堀係長：続けて資料を説明させていただく。【資料説明】

白神教育長：今後分析を行っていくので、詳しい分析ができればその時に資料でお示しする。

(3) その他

貝原課長補佐：委員の方に参加していただいた、岡山県市町村教育委員会委員研修会の追加の質問と回答の資料が送られてきた。確認をお願いしたい。

3 連絡

猪木課長：今後の行事の予定はレジュメのとおりとなっている。子ども議会では資料のような質問が出ている。質問はもっと進めて提案までできるような内容にす

るよう学校園をお願いをしている。良い子ども議会ができるのではないかと
思っている。

4 閉会